



南極条約体制の強靱性 公開国際ワークショップ開催案内 (GSICS 2018 年度機能強化経費支援イベント)

International Workshop on The Resilience of the Antarctic Treaty System to Future Challenges

日時：2018年12月19日(水) 9:30~12:30
場所：第5学舎(GSICS) 6F SI Room
言語：英語(通訳はありません)
Language: English

「南極」と聞いて何を思い浮かべますか？真っ白な厚い氷に覆われた大地に、ペンギンやユキドリが暮らし、地球上で唯一「国境」がない陸地で、人間は科学調査を中心に平和に活動をしているところ、とのイメージではないでしょうか。

ところが最近、南極を「戦地 battlefield」とか「ナショナリズムの競争の地」と形容する国際関係論者やメディア報道が急激に増えています。いずれも南極を軍事戦略的もしくは資源競争の地として見ようとする論調です。南極はもはや「平和及び科学に貢献する自然保護地域」(1997年南極環境保護議定書第2条)ではなくなってしまうのでしょうか？南極では、国際法により石油や天然ガス、レアアースなどの採掘は禁止されていますが、2048年の再検討の後、鉱物資源開発が解禁されてしまうのでしょうか？

このワークショップは、これら「挑戦」を客観的に評価し、南極条約を中心とする国際法制度は、十分な強靱性をもってそれに耐え、そして課題を平和裡に解決していく法的力があると主張する、国際法学者を中心とした国際研究プロジェクトの一環で開催されます。

なお、本研究は、2019年度よりGSICSで開講される「国際極域法 I」 「International Polar Law II」とも連動しています。



Program

Open Workshop: December 19 (Wed) 9:30 to 12:30 at Simulation Room, GSICS Building 6F

1. Why “The Resilience of the Antarctic Treaty System” today?: Aim of the project

Julia Jabour, IMAS, University of Tasmania, Australia
Akiho Shibata, PCRC, Kobe University, Japan

2. How Do We See the Future Challenges of ATS?

Luis Valentin Ferrada, University of Chile, Chile
Jill Barrett, Queen Mary, University of London, United Kingdom
Kees Bastmeijer, Tilburg University, The Netherlands

3. Discussion:

Nigel Bankes, University of Calgary, Canada
Rachael Lorna Johnstone, University Akureyri, Iceland

Inquiries and registration: ATS resilience study group secretariat:
<antarctic_study_group [at] penguin.kobe-u.ac.jp>